

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は弱まっている。

- ・ 鉱工業生産は減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は悪化しつつある。

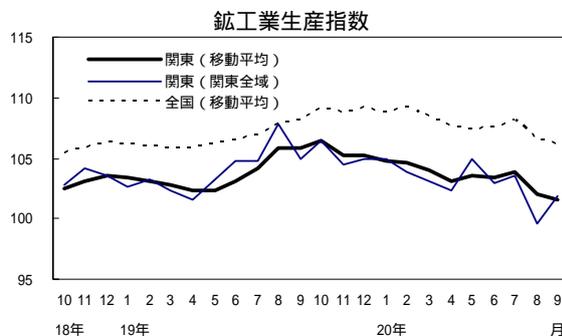
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 20 年 8 月)	今回 (平成 20 年 11 月)	
景況判断	回復の動きに足踏み	弱まっている	
鉱工業生産	おおむね横ばい	減少	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
住宅建設	減少	大幅に増加	
雇用情勢	改善の動きに足踏み	悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。(関東全域)

輸送機械は、乗用車及び自動車部品等が低調に推移したため、3 四半期連続で減少している。化学は、原材料高によりレジ袋などに使われるポリエチレンや食品トレーなどに使われるスチレンモノマーが生産調整の影響で振るわなかったことから、減少している。一般機械は、半導体製造装置や金属工作機械が低調であったため、3 四半期連続で減少している。電気機械は、鉄道会社向け開閉制御装置、電力会社向け非標準変圧器などが前期の反動で減少し、産業用ロボットの駆動源であるサーボモータも低調だったことから、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

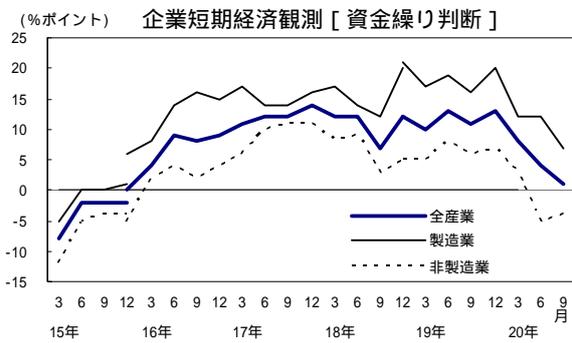
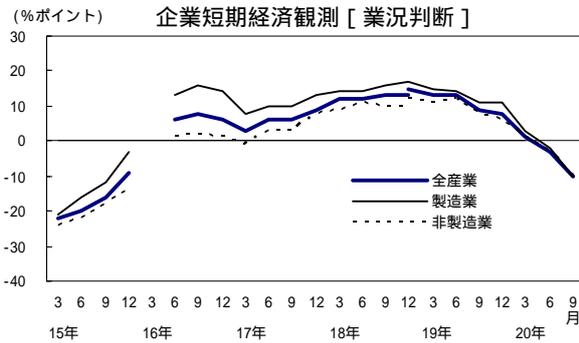
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	15.2	0.3	0.2	0.8	7.2
化学	13.4	2.4	0.4	2.1	7.1
一般機械	13.2	3.1	4.9	6.6	4.4
電気機械	7.8	1.3	1.3	0.7	1.8
食料品・たばこ	7.1	2.1	2.9	0.4	
鉱工業	100.0	0.6	1.7	1.3	1.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 食料品・たばこの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

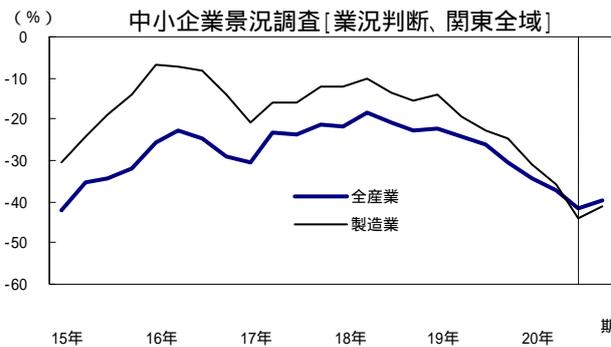
旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「9月に自動車部品関連の倉庫を契約した顧客が、今月、違約金を払って解約した。他の倉庫でも、決まりかけていた案件が取りやめになる等、受注が厳しくなっている(輸送業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

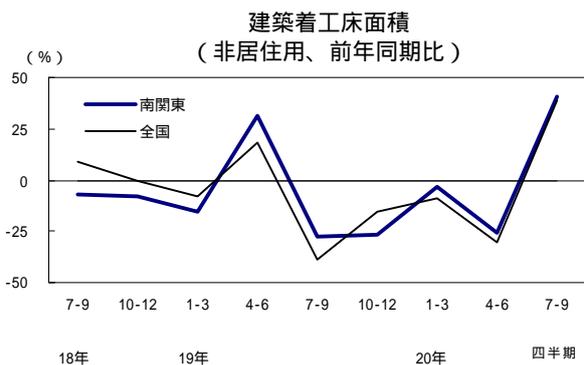
(3) 20年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	17.9	9.6(0.5)
製造業	24.7	8.8(1.3)
非製造業	3.6	11.6(1.5)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

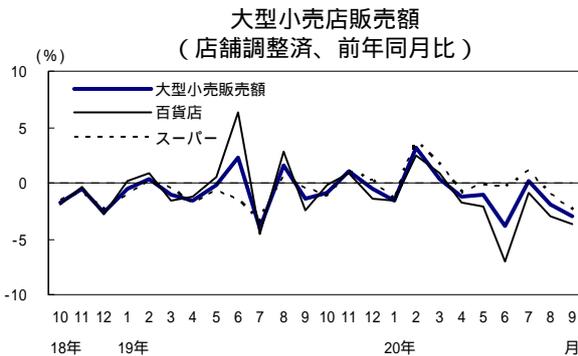
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、クリアランスセールにより、婦人服を中心に主力の衣料品が好調であったものの、飲食料品が振るわず、全体では前年を下回った。8月は、お盆や土産用菓子等の飲食料品が好調であったものの、天候不順のため衣料品が振るわず、前年を下回った。9月は、物産展等により飲食料品に動きはあったものの、衣料品が不調で、家庭用品やパンプス等の身の回り品も振るわず、7か月連続で前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の10月の売上高は前年同月比8.4%減となっている。

スーパーは、「中元」「お盆帰省」などへの対応により、飲食料品は好調であったが、衣料品、家庭用品が振るわず、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

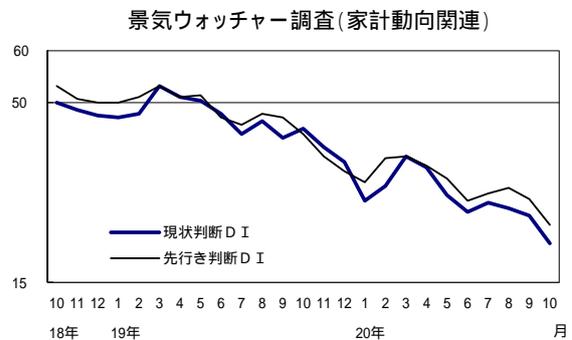
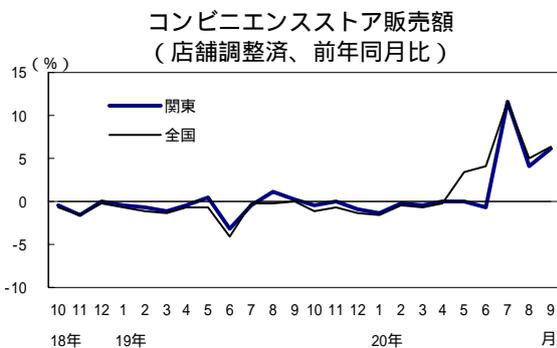
「宴会の問い合わせは多いが、最初から予算オーバーとの理由で予約につながらない。前年と料金設定は変わってないのに、高いと言われる回数が増えている。宴会、婚礼共に最低ランクの料理で良いという客が多い(その他サービス[結婚式場])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.2	0.4	2.1	1.5
百貨店	0.3	0.2	3.8	2.3
スーパー	0.0	1.1	0.4	0.8
コンビニ	0.5	0.7	0.2	7.2
景気ウォッチャー	41.5	34.7	32.7	29.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。20年7-9月期は速報値。コンビニは関東全域。

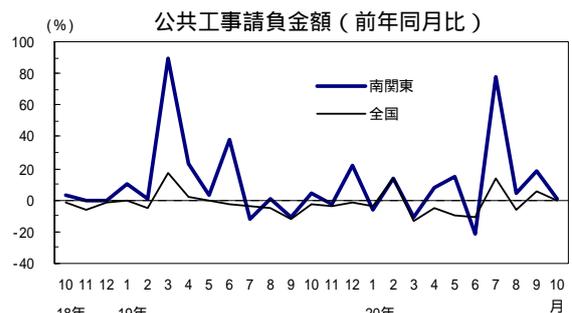
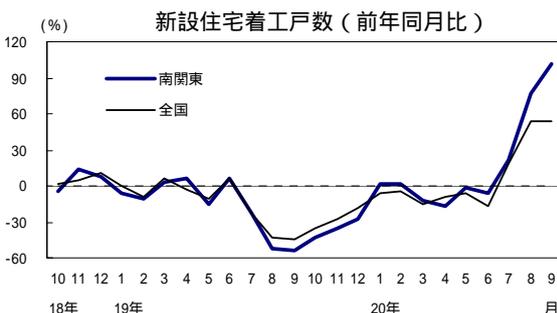
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

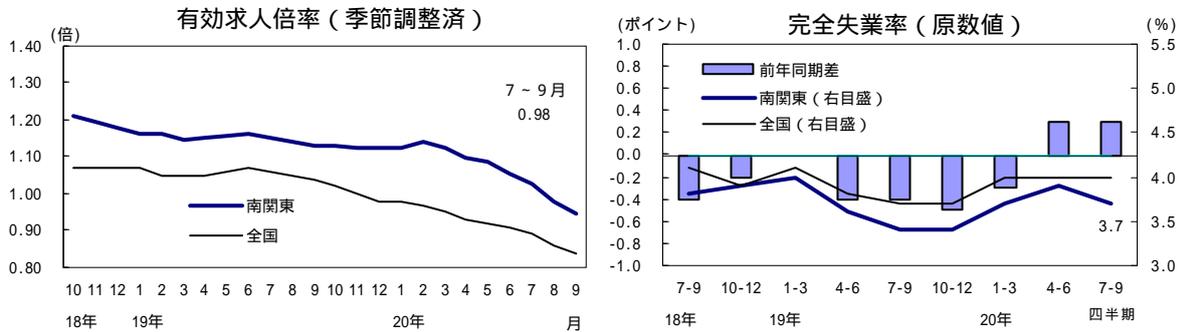
建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、分譲を中心に大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は悪化しつつある。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。

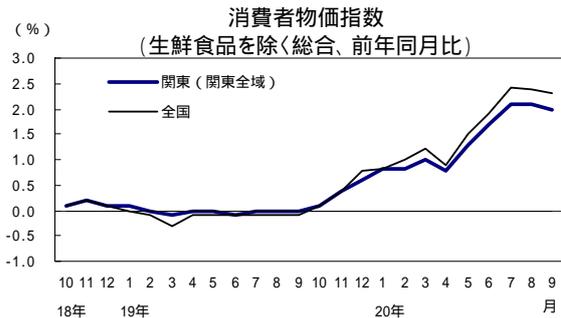


景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]
「中小企業等で欠員募集の際、正社員ではなくパート、アルバイトに切り替えるケースが増えている (求人情報誌製作会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数が増加し、負債総額が大幅に増加している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月	20年10月
倒産件数 (前年比)	1,044 7.0	1,031 2.8	1,113 13.3	1,211 19.3	418 17.7
負債総額 (前年比)	5,018 3.3	5,860 13.3	8,129 62.6	56,348 524.5	7,109 298.7



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- 新規求職者数が前年同月比 15%増加している。事業主都合による離職者及び、勤務時間や勤務日数の減少を理由とした在職求職者が増加している (職業安定所)。

<先行き>

- 融資を受けたくても銀行は現在の業績では融資に難色を示しており、必要な資金をどのように確保するか苦慮している。今後ますます厳しくなることは確実である (輸送業)。

